

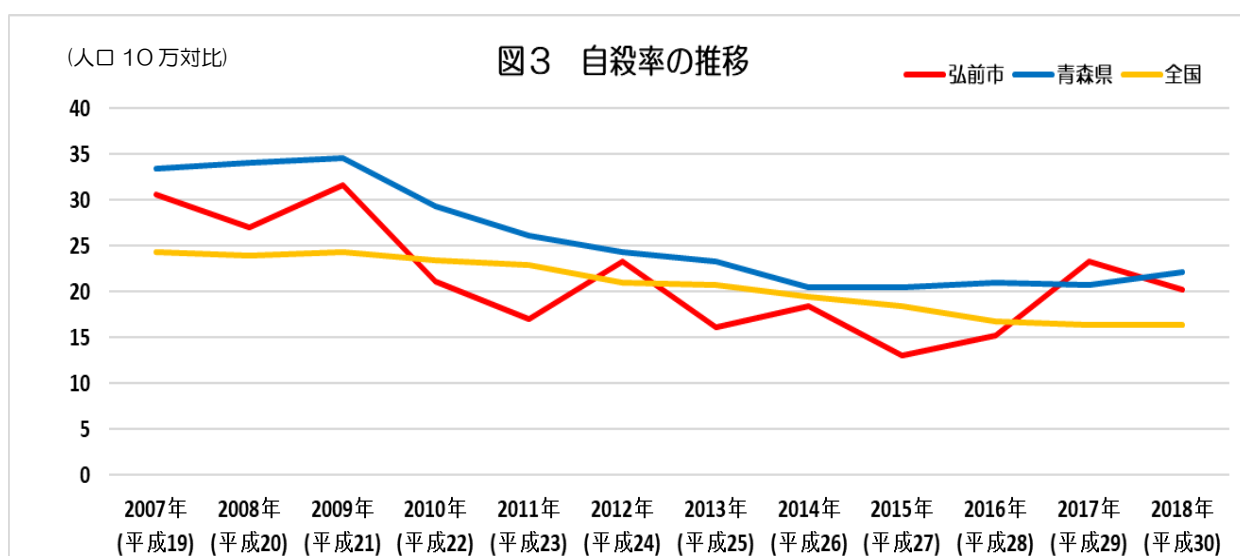
第2章 弘前市の現状と課題

第2章 弘前市の現状と課題

1 自殺率の推移

全国と当市の自殺率を比較すると、2009（平成21）年までは全国より高い傾向にありましたが、2010（平成22）年以降は概ね低い傾向で推移しました。2016（平成28）年以降は、増減が顕著にあります。（図3、表1）

青森県と比べると、年次により増減はありますが、概ね低い傾向で推移しています。



2007（平成19）年から2009（平成21）年までの当市の年間自殺者数は、50人前後でしたが、その後は減少し、20～40人台で推移しています。（表1）

表1 自殺者数・自殺率の推移

		単位 自殺者数（人） 自殺率（人口10万対）											
		2007年 (平成19)	2008年 (平成20)	2009年 (平成21)	2010年 (平成22)	2011年 (平成23)	2012年 (平成24)	2013年 (平成25)	2014年 (平成26)	2015年 (平成27)	2016年 (平成28)	2017年 (平成29)	2018年 (平成30)
弘前市	自殺者数(人)	57	50	58	39	31	38	29	33	23	27	43	36
	自殺死亡率	30.6	27.1	31.7	21.2	17.0	23.3	16.1	18.5	13.0	15.3	24.7	20.9
青森県	自殺者数(人)	469	473	476	403	356	327	311	270	267	271	265	259
	自殺死亡率	33.4	34.1	34.6	29.4	26.2	24.3	23.3	20.5	20.5	21.0	20.8	20.6
全国	自殺者数(人)	30,827	30,229	30,649	29,554	28,874	26,433	26,063	24,417	23,152	21,021	20,468	20,031
	自殺死亡率	24.4	24.0	24.4	23.4	22.9	21.0	20.7	19.5	18.5	16.8	16.4	16.1

【図3、表1の出典】

弘前市・青森県：青森県保健統計年報(第19表、第19表の2)

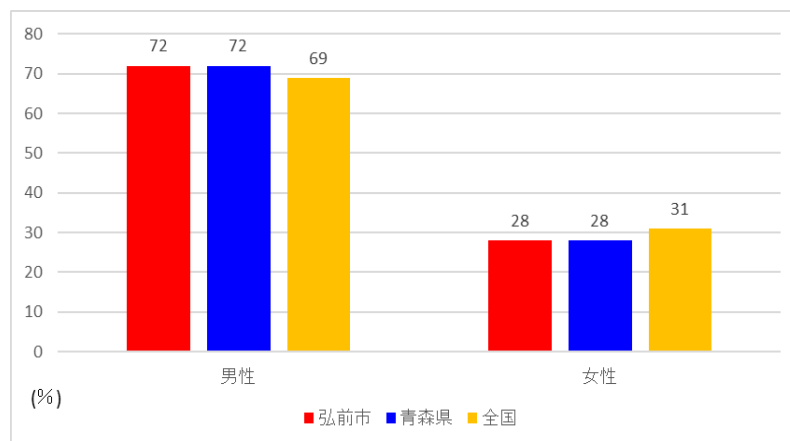
全国：人口動態統計(確定数)の概況(第7表、死因簡単分類別にみた性別死亡数及び率(人口10万対))

2 性別・年代別の特徴

性別自殺者数の割合は、2009（平成21）年から2015（平成27）年までの合算でみると、総数269人のうち男性は 194人で72%、女性が75人で28%です。

青森県（男性72%、女性28%）と同傾向であり、全国（男性69%、女性31 %）と比べると、男性の割合がやや高い傾向にあります。（図4）

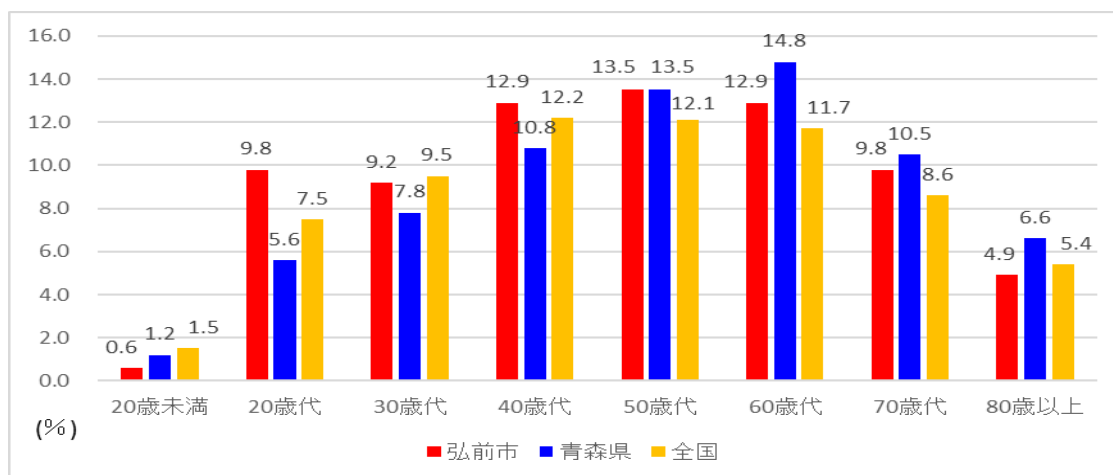
図4 性別の自殺者割合（2009（平成21）～2015（平成27）計）



出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2017)」より
※全自殺者に占める割合を示す

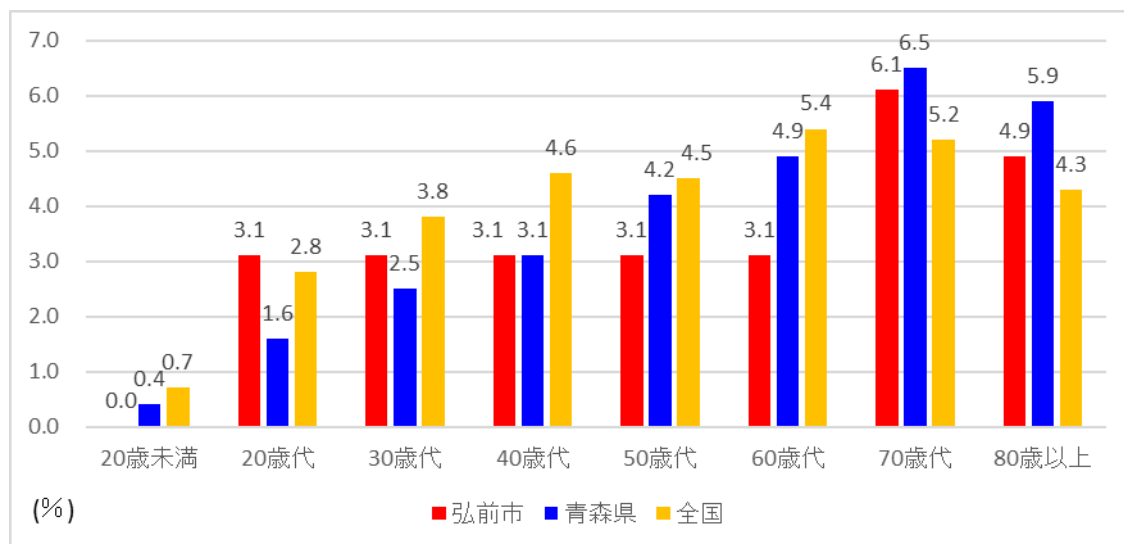
男性の年代別自殺者割合については、2012（平成24）年から2016（平成28）年までの合算で高い順にみると、50歳代（13.5%）、40歳代・60歳代（12.9%）、20歳代・70歳代（9.8%）の順となっています。国や県と比較すると、20歳代（9.8%）・40歳代（12.9%）が高くなっています。（図5）

図5 男性・年代別の自殺者割合（2012（平成24）～2016（平成28）計）



女性を高い順にみると、70 歳代（6.1%）、80 歳以上（4.9%）の順となっています。国や県と比較すると、20 歳代（3.1%）が高くなっています。（図6）

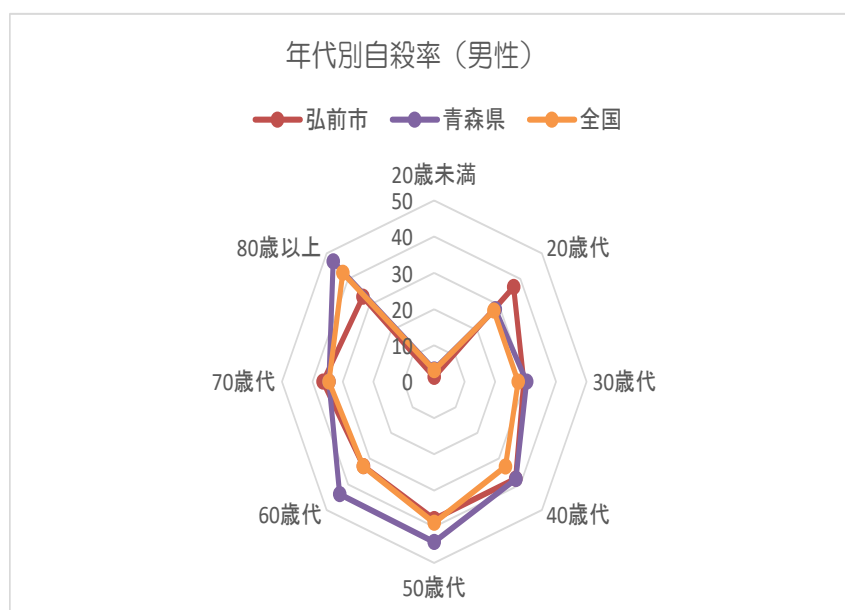
図6 女性・年代別の自殺者割合（2012（平成 24）～2016（平成 28）計）

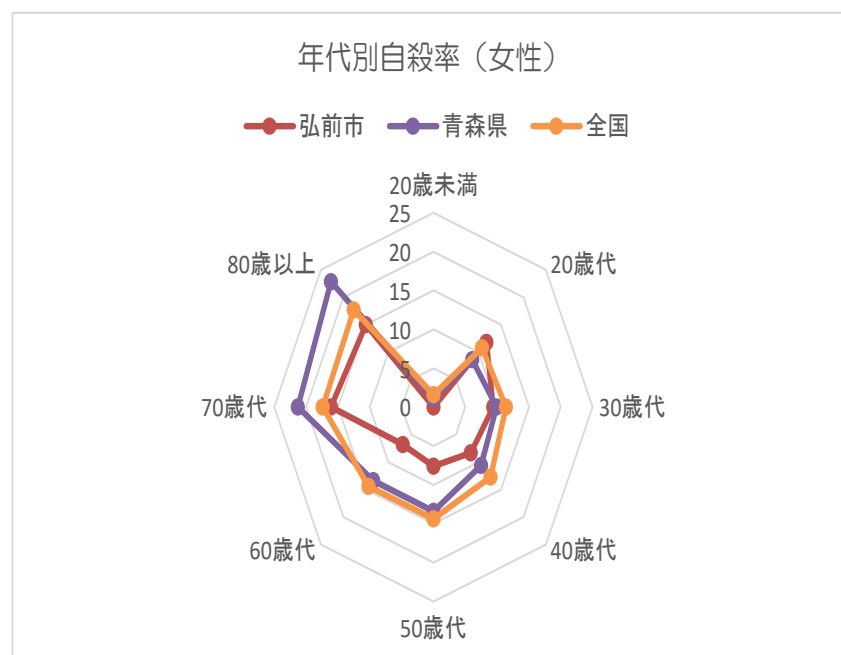


出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2017)」より

性別年代別の自殺率を全国・青森県と比較すると、男性は全国・県と同様の傾向にあり、県よりは全体的に低い傾向ですが、20歳代が全国・県よりも高く、80歳代が全国・県よりも低い傾向にあります。女性についても、全国と同様の傾向で、県よりは低い傾向にありますが、20歳代が全国・県より高い傾向にあります。（図7）

図7 年代別自殺率（比較）





3 生活状況別の特徴

生活状況別（性別・年齢階級（成人3区分）・職業の有無・同居人の有無）の上位5区分をみると、自殺者に占める割合が最も高いのは、「男性・60歳以上・無職・同居者有」の区分となっています。その自殺に至る主な危機経路として、失業（退職）からの生活苦に、介護の悩み（疲れ）、身体疾患等が加わることにより、自殺に至っていると報告されています。（表2）

表2 生活状況別（性別・年齢階級（成人3区分*）・職業の有無・同居人の有無）の上位5区分自殺者

	上位5区分	自殺者数 5年計	割合	自殺死亡率** (10万対)	背景にある主な自殺の経路***
1 位	男性60歳以上 無職・同居者有	23	14.1%	39.7	失業（退職）→生活苦＋介護の悩み（疲れ）＋身体疾患 → 自殺
2 位	男性40～59歳 有職・同居者有	22	13.5%	25.7	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み ＋仕事の失敗→うつ状態→自殺
3 位	女性60歳以上 無職・同居者有	18	11.0%	16.7	身体疾患 → 病苦→うつ状態→自殺
4 位	男性60歳以上 有職・同居者有	15	9.2%	28.9	①【労働者】身体疾患＋介護疲れ→アルコール依存→うつ状態→自殺 ②【自営業者】事業不振→借金＋介護疲れ→うつ状態→自殺
5 位	男性20～39歳 無職・同居者有	14	8.6%	109.7	①【30代その他無職】ひきこもり＋家族間の不和→孤立→自殺 ②【20代学生】就職失敗→将来悲観→うつ状態→自殺

注：順位は自殺者数の多い順とし、自殺者数が同数の場合は自殺率の高い順とした。

* 20～39歳、40～59歳、60歳以上の3区分

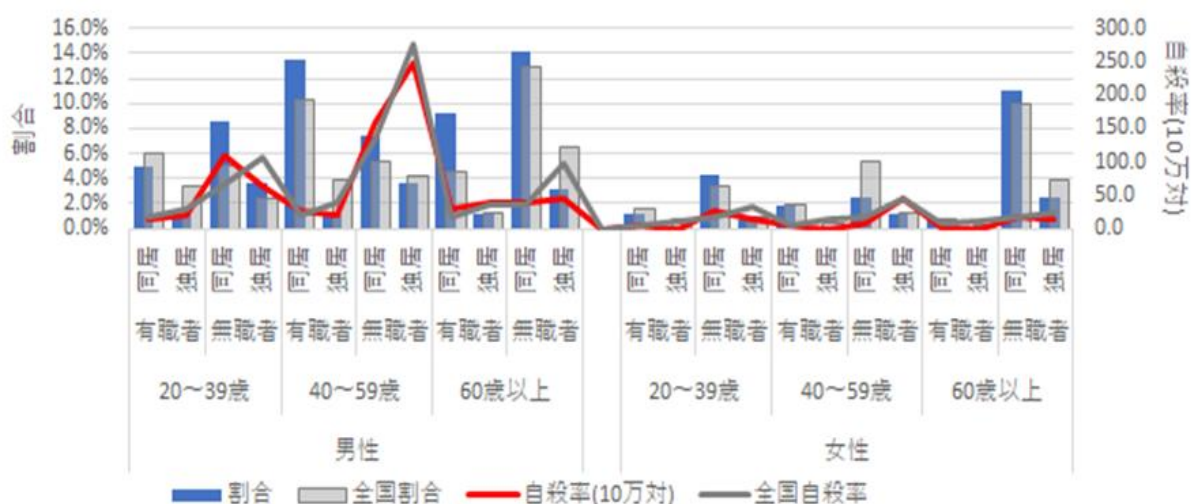
** 自殺率の母数（人口）は平成27年国勢調査を元に自殺総合対策推進センターにて推計した。

*** 「背景にある主な自殺の経路」は自殺実態白書2013（ライフリンク）を参考にした。

4 生活状況別の自殺者割合・自殺率

生活状況別（性別・年齢階級（成人3区分）・職業の有無・同居人の有無）の自殺者の割合では、男女とも60歳以上の無職者で、同居人有が最も高く、自殺率では、男女とも40～59歳の無職者で、同居人無が最も高くなっています。（図8）

図8 生活状況別の自殺者割合・自殺率



出典：自殺総合対策推進センター 「地域自殺実態プロファイル（2017）」より

5 自殺未遂歴の有無

2012（平成24）年から2016（平成28）年までにおける、当市の自殺者のうち、亡くなる前に自殺未遂の経験があった人は、全体の10%です。一方で、自殺未遂歴が不詳の場合が78.0%あります。（表3）

表3 自殺未遂歴があった自殺者の割合

自殺 未遂歴	弘前市		青森県		全 国	
	数 (人)	割合 (%)	数 (人)	割合 (%)	数 (人)	割合 (%)
あり	16	10	217	14	24,841	20
なし	20	12	891	58	75,488	60
不詳	127	78	423	28	25,028	20
合計	163	100	1,531	100	125,357	100

出典：自殺総合対策推進センター 「地域自殺実態プロファイル（2017）」より

6 自殺の特性の評価

地域実態プロファイルによる、全国市区町村に対する当市の自殺の特性は、年代別にみると、20歳代が高く、重点対象群指標では、若年者（20～39歳）と無職者・失業者のランクが高くなっています。（表4）

表4 地域の自殺の特性の評価（2012（平成24）～2016（平成28）合計）

	指標	ランク		重点対象群指標	ランク
総数 ¹⁾	18.1	—	男性 ¹⁾	28.9	—
20歳未満 ¹⁾	0.7	—	女性 ¹⁾	8.9	—
20歳代 ¹⁾	24.5	★	若年者(20～39歳) ¹⁾	21.6	★
30歳代 ¹⁾	19.2	—	高齢者(70歳以上) ¹⁾	22.9	—
40歳代 ¹⁾	22.4	—	勤務・経営 ²⁾	13.3	—
50歳代 ¹⁾	21.9	—	無職者・失業者 ²⁾	44.9	★
60歳代 ¹⁾	18.9	—	ハイリスク地 ³⁾	92%/-13	—
70歳代 ¹⁾	24.5	—	自殺手段 ⁴⁾	30%	—
80歳以上 ¹⁾	20.6	—			

1) 自殺統計にもとづく自殺率（10万対）。

2) 特別集計にもとづく20～59歳を対象とした自殺率（10万対）

3) 自殺統計にもとづく発見地÷住居地（％）とその差（人）。

4) 自殺統計もしくは特別集計にもとづく首つり以外の自殺の割合（％）。首つり以外の割合が多いと高い。

ランクの標章：市区町村について全国市区町村に対するランクを評価した。

ランク	
★★★/☆☆	上位 10%以内
★★/☆	上位 10～20%
★	上位 20～40%
—	その他
＊＊	評価せず

出典：自殺総合対策推進センター 「地域自殺実態プロファイル（2017）」より

7 若年者の特性

子ども・若者関連の自殺については、当市では20歳以上の大学生が多く性別と同居の有無では、同居人がいない男性の割合が高いです。（表5）

全国では、20歳未満の学生・生徒が多く、性別と同居の有無では、同居人がいる男性の割合が高くなっています。

表5 若者関連資料

[特別集計（自殺日・住居地、2012（平成24）～2016（平成28）合計）]

学生・生徒等	弘前市		全国割合
	自殺者数	割合	
中学生以下	0	0	12 %
大学生以下	8人	100%	75 %
専修学校生等	0人	0 %	14 %

出典：自殺総合対策推進センター 「地域自殺実態プロファイル（2017）」より

8 有職者の特性

当市の就業人口を、産業分類の割合別でみると、農業、卸売・小売業及び医療・福祉関係が多くなっています。(表6)

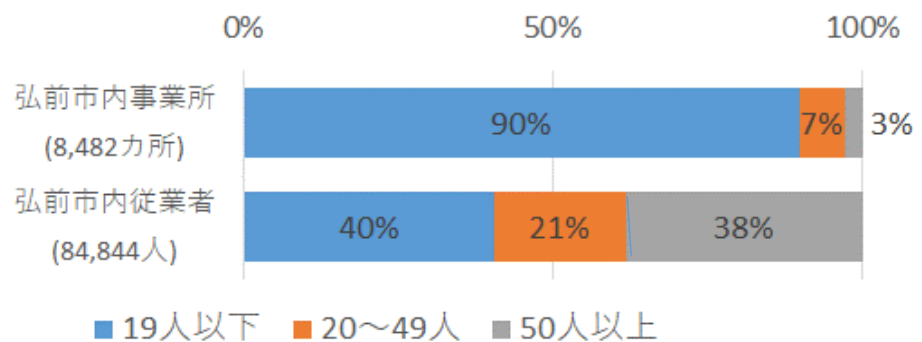
事業所規模別事業所の割合は、19人以下の事業所が9割を占めています。(図9)

有職者の自殺については、全国・県と比較して自営業・家族従業者の割合が高くなっています。(表7)

表6 産業就業人口 2015 (平成 27 国勢調査より)

産業大分類	実数	割合
総数	85,719	100.0
第1次産業	12,316	14.4
農業	12,242	14.3
林業	67	0.1
漁業	7	0.0
第2次産業	13,579	15.8
鉱業、採石業、砂利採取業	14	0.0
建設業	5,334	6.2
製造業	8,231	9.6
第3次産業	54,242	63.3
電気・ガス・熱供給・水道業	365	0.4
情報通信業	583	0.7
運輸業、郵便業	2,833	3.3
卸売業、小売業	12,843	15.0
金融業、保険業	1,674	2.0
不動産業、物品賃貸業	893	1.0
宿泊業、飲食サービス業	4,461	5.2
医療、福祉	12,569	14.7
教育、学習支援業	4,948	5.8
複合サービス事業	848	1.0
サービス業	8,641	10.1
公務	3,584	4.2

図9 地域の事業所規模別事業所／従業者割合（平成26 経済センサス-基礎調査）



	総数	1～4人	5～9人	10～19人	20～29人	30～49人	50～99人	100人以上	出向・派遣従業者のみ
事業所数	8,482	5,005	1,615	977	363	254	144	95	29
従業者数	84,844	10,364	10,663	13,323	8,627	9,490	9,624	22,753	-

出典：自殺総合対策推進センター 「地域自殺実態プロファイル（2017）」より

表7 勤務・経営関連資料

有職者の自殺の内訳（特別集計（自殺日・住居地、H24～28 合計）

職業	弘前市		県割合	全国割合
	自殺者数	割合		
自営業・家族従業者	19	33.3%	31.8%	21.4%
被雇用者・勤め人	38	66.7%	68.2%	78.6%
合計	57	100.0%	100.0%	100.0%

（性・年齢・同居の有無の不詳を除く）

出典：自殺総合対策推進センター 「地域自殺実態プロファイル（2017）」より

